

わたしたちの人權

119

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが「人權」です

子どもたちの人權作文

十二月の人權旬間にあわせて、子どもたちが書いた人權作文を二・三月号でご紹介します。今月は二名の作品を紹介します。〈今月は蘇陽南小 坂本琉皇さん 潤徳小 高橋楓綾さんの作文を掲載し、来月号には矢部小 藤田夏綺さん 清和中 奈須雅俊さん 矢部高 國武咲希さんの作文を掲載します。〉

「ぼくは、気持ち分かりません」

蘇陽南小学校 三年 坂本 琉皇さん



5・23集会の時、解放子ども会の人たちが、ハンストや内大臣のことを発表しました。その話を聞いて、ぼくは、ハンストのこともっと知りたくなりました。

ぼくたちは、ますながさんと小松さんから話を聞きました。ますながさんたちの村は、水道もつくってもらえなかったし、道も

せまくて、きゆうきゆう車も消ぼう車も通れなかつたから、みんなでハンストをしました。ハンストとは、ハンガーストライキのことです。ごはんを食べないですわりこみをしてよいうきゆうすることです。ますながさんが、「十月二十七日の朝八時三十分から十月三十日まで三ぱく四日のすわりこみをしたよ。ごはんを食べずにしたよ。役場の前のコンクリートにすわった。町長さんや役場のえら

い人たちとずっと話し合いをした。」と言いました。ぼくは、ますながさんの話を聞きながら、この村だけ道もせまいし、役場がこの村だけほつたらかしたのがおかしいと思いました。せつかく決めた国のほうりつが、あと二年で切れてしまうのに、何もしてくれんから、ぼくはいかんと思いました。だから、ますながさんたちはハンストをしたと思いました。ぼくは、役場の人たちに立ち向かったのがすごいと思いました。ますながさんが、「命がけのたたかいだった。でも役場の前にすわりこみをしてよいうきゆうしないと、おれたちの村のくらしはよくなるかと思つてした。」と言いました。

ハンストの三日目の夜は雨だつたそうです。その時、内大臣の人たちが、カンパを持つておうえんにかけてくれたそうです。ますながさんが、「とてもうれしかった。一生わすれん。」と言いました。まわりの村の人たちは、「何しよらすとだろつか。」という目で見たり、悪口を言つたりしたけど、内大臣の人たちはおうえんに来てくれたから、うれしかったと思ひました。ぼくは、内大臣の人たちは、えらいと思ひました。内大臣の人たちは、中尾の

人たちと同じようにさべつされていたら、ますながさんたちの気持ちが分かつておうえんに来たのだと思ひました。

ぼくは、ますながさんたちの気持ちが分かつておうえんに来たのだと思ひました。ぼくは、バスに乗る時、ぼくだけ一人ぼつちにされたりしました。ぼくは、とつてもいやで、くやしくて、頭がくらくらしました。だから、ますながさんたちが、ずつとくやしかつた気持ちが分かります。

運動会の時、ぼくは、低学年の赤団の団長をしました。予行練習の時、二年生の人

が、「今日は、〇〇君が、休んだけん、リレー、勝つたんだ。」と言いました。ぼくは、それはちがう、おかしいと思ひました。だからすぐに「そんなこと言うなよ。そんなこと言うたらいかんだろ。」と言いました。ぼくは、言われた人はとつてもいやな気持ちになつて思ひました。

ぼくたちは、勉強したことを紙しはいにして発表しました。ぼくは、ハンストのことといじめられたことを発表しました。紙しはいの後の意見交かんの時、友だちが「れお

くんをいじめたのが本当にかんだつた。そのことを紙しはいで一番言いたかつた。」と言ひました。ぼくは、「そう言つてくれてうれしかつた。」と言ひました。ぼくは、ちよつとだけすつきりしました。

「水俣病から学んだこと」

潤徳小学校 五年 高橋 楓綾さん



私は、今まで水俣病という病気があるということを知つていたけど、どのような病気なのかは知りませんでした。でも、人けん学習や集団宿泊で水俣病のことを勉強して、水俣病の原因や患者さんの思いなどが分かりました。特に印象に残つたことは三つあります。

一つ目は、水俣のチツソ工場は水俣病の原因は自分達の工場が出している

山都町人權旬間関連事業(人權講演会)

及び山都町人權を考える町民の集い

山都町人權旬間の一環として十二月四日(木)から五日(金)にかけて蘇陽総合支所、矢部中体育館(中学生対象)、清和山村基幹集落センターにおいて、元フリーアナウンサーの道志真弓さんをお招きし、「笑顔の戦士く生きてるって幸せ」と題した講演会がありました。

講演では、愛娘の生きた八年間の親子のつながりや愛、命の大切さなどについて話されました。

また、十二月九日(火)には山都町人權を考える町民の集いが矢部保健福祉センター「千寿苑」で開催されました。

講演では、町内の小・中・高校生五人による人權作文の発表と元高校教師である宮本延春さんの「オール1の落ちこぼれ、教師になるくいじめ、引きこもり、天涯孤獨の絶望を乗り越えて」と題した講演がありました。

子どもたちの人權啓発作文は、生活の中にある人權や学習で学んだことなど気づきや思いが発表されました。

講演では、宮本さんの壮絶な生い立ちや高校教師を目指した思い、またその中

出会つた人たちとのつながりについて話されました。いづれの集いも参加者は、自分の思いと重ねながら子どもたちの発表や講師の話に熱心に耳を傾けていました。

を覚えて。」といやみのように言つて来たことです。水俣病の人は好きで水俣病になつたわけじゃないのに、「ほしよう金で買えていいな。」と言われてとてもいやだつたと思ひます。また、本当はお

父さんが一生懸命働いて買つてくれたのにそんなことを言われて悔しかつたと思ひます。私は水俣病の勉強をして自分の生活もふり返りました。私は〇〇ちゃんとは仲良しだから注意する時は笑つて許すけど、〇〇ちゃんとは仲が良くないからきつク注意して、人によつて接し方を変えていました。また、仲がいい人で集まつて話している時に他の人が入つて来ると、その話に入れないので、集団で無視したり省いたりしていました。これは、市民の人が水俣病の人達にした差別と同じだと気が付きました。

これからは、だれにでも平等な態度で接していつてだれでも仲良くしていいと思ひます。また、相手の気持ちを考へて行動していきます。

工場排水(メチル水銀)であることがネコ実験で分かつていたのに、それをかくして害のあるメチル水銀を流し続けていたことです。市民からの信頼がなくなることをおそれたり、工場の利益を優先したりするために、流し続けたことは、自己中心的で無責任だと思ひます。私はこのことを知り、腹が立ちました。原因が分かつていたはずだし、発表し、メチル水銀を止めておけば、苦しむ患者さんも減つたはずだし、症状も軽くなつていたはずです。

二つ目は、水俣病の人や、その家族が市民からひどい差別を受けていたことです。水俣病の人が買い物に行つてお金をはらおうとしたら、店の人はお

くから竹ざおにさしたざるを持つて来て、その中にお金を入れさせたそうです。水俣病の人はしようがなくその中にお金を入れていました。私はうつる病気じゃないのにさけるのはおかしいと思ひます。自分がされたら腹が立つし、絶対に許せません。

三つ目は、水俣病の人が学校に行つてランドセルから新しいノートやえんぴつなどを出すと、友達が近寄つて来て、「いいな。〇〇くんはほしよう金で新しいの

山都町人權旬間関連事業



講師の道志さん

山都町人權を考える町民の集い



子どもたちの発表



講師の宮本さん